

# 北朝鮮・金正恩体制の行方

牧野 愛博

朝日新聞 前ソウル特派員

○中川 牧野愛博さんにお話をいただきます。

牧野さんのご紹介をさせていただきます。牧野さんは1991年に朝日新聞に入社され、地方勤務の後、政治部に配属されました。その後、そこで今伺ったところでは、小沢一郎さんを担当したこともあるそうです。それで、その後、ソウル特派員——全部で5年、6年かな——を経て、現在、国際報道部の機動特派員ということで、世界をまたに活動を続けています。最近、朝日新聞は極東地域に非常に力を入れておりまして、企画記事をたびたび載せておりますが、そこで牧野さんは大変精力的に執筆活動をしておられます。名前をごらんになった方もいるんじゃないかと思いますが、とりわけ何といいますが、このことはご紹介しておきたい点なんです。6月13日付の朝日新聞、お手元にコピーがあると思います。「中国、北朝鮮に軍用車両」、実は皆様のご記憶にあるかもしれませんが、金日成主席の生誕100年のときの軍事パレードでミサイルが出てきて、みんなびっくりしたのですが、それを運んでいる軍事車両は、実は中国から北朝鮮に渡されたものであったということが牧野さんの大スクープによって明らかになりました。これは本当に世界的なスクープであります。口幅ったい言い方になりますが、こういう特ダネが日本から出るのは10年に一遍、20年に一遍、それぐらいの価値の高い記事だということができると思います。これも牧野さんが、この地域に対していかに深い取材をしてきたか。そのあらわれの本当に一端にすぎないと思います。

きょうは、そういったこれまでの取材の蓄積の中から皆様いろいろな興味深いお話をしてくださることになると思います。余りこんなことに時間を費やさず、早速、牧野さんにお話をいただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○牧野 皆さん、こんにちは。今、ご紹介いただきました朝日新聞の国際報道部の牧野と申します。きょうは週末にもかかわらず、大勢の方にお越しいただきまして、本当にありがとうございます。

今、ご紹介していただきましたように、私、ことしの1月までソウル支局に勤務しておりました。5年間おりましたけれども、東京に戻ってまいりまして半年近くたちましたので、多少今の動きと、ちょっと詳しくない部分もあるかと思うんですが、きょうは一生懸命いろんなことをお話しさせていただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。(拍手)

それで、テーマが「北朝鮮・金正恩体制の行方」ということですので、資料のほうには韓国で

すとか、日本との関係なんかも書いておきましたけれども、主に北朝鮮、どんな国なんだろう、金正恩さんってどんな人だろうというようなことを、なるべく一般の人からの視線というか、興味のある北朝鮮の人の一般の生活ですとか、そういったことも交えながらお話しさせていただきたいと思います。

というのも、北朝鮮は非常に閉鎖国家で、韓国には皆さん、たくさん行かれているかと思うんですが、北朝鮮にはなかなか足を伸ばすことが難しいという事情もありますので、余り北朝鮮という国、どんな国なんだろうというのがなかなか伝わってきません。これは我々マスコミの責任も非常に大きいんですけども、近年は拉致問題が非常に大きく話題で取り上げられましたので、北朝鮮というと、戦前の鬼畜米英じゃないんですけども、何かとんでもない悪人ばかりがばっこしている、すごい国なんじゃないかというふうに思われる方もたくさんいらっしゃるんですが、最初に申し上げておきたいんですけども、北朝鮮で暮らしている方というのは大多数、9割以上の方が、今ここに集まっていられる皆さん方と全く同じ、普通の人たちです。いろいろ悲しいことがあれば泣くし、楽しいことがあれば笑うし、一緒にお酒を飲んだり、真面目な話もするし、決して今の北朝鮮の体制がいいと思って彼らが支持しているわけじゃありません。そういうことをぜひ念頭に最初置いていただいて、私の話を聞いていただけたらいいなと思います。

せっかく中川さんのほうから記事のご紹介がありましたので、記事の中身についてはまた、もしご質問があれば受けたいと思いますけれども、パレードの話をちょっと最初にして、それからちょっと私の話を徐々にご紹介させていただきたいと思います。

北朝鮮は、金日成主席生誕 100 周年のこの 4 月 15 日の日に、非常に力を入れて一大イベントだと。いわゆる当時、今、金永南さんというナンバー 2 の人が、これは要するに朝鮮民族の最大の慶事として祝うんだと、一般の朝鮮中央通信でも伝えたように、物すごく力を入れた行事として展開しました。こういったミサイルを出してみたり、近代兵器を出してきたのも、これだけ我々はこの行事に力を入れているんだと内外の人に見てもらおうという目的があったわけですね。

残念ながら、朝日新聞はここには呼んでもらえなくて、ただ、日本のメディアも NHK ですとか、共同通信なんかがこのパレードに参加しまして、たくさんその報道を流しました。

それは、じゃ、何でお金もないのに、こんなパレードに力を入れるんだろうということを考えていくと、きょう、私が最初に一番申し上げたい、要するに今、北朝鮮がやっている行動というのは、全てこの題名にもありますけれども、金正恩体制を安定させて、今の金正恩さんを頂点とした政治体制を守るための一連の取り組み、その象徴がこのパレードだったということが言えるんだと思います。要するに、金正恩さんというものが、いかにリーダーとしてふさわしいのかということを示すためのイベントが、このパレードだったというふうに言えるんだと思います。

こういったことをお話しする上で、まず最初に皆さんに知ってほしいんですけども、北朝鮮というのは、ある意味、アフリカなんかの独裁国家とはまたちょっと違う独裁国家なんですね。何を言いたいかということ、北朝鮮の人たちというのは、自分たちが選挙で選ばれた人間ではない

ということをよく自覚しているんですね。社会主義の政権によくあることなんですけれども、彼らは一生懸命そのプロパガンダを考えて、朝鮮労働党ですとか、金正恩さんがいかにすばらしいリーダーかということは何回も何回も繰り返すわけです。それはなぜかという、そういったことはアフリカの独裁者なんかはしないわけですね。要するに、権力を持っているのは自分なんだから、そのことを前提にアピールする必要はなくて、俺がリーダーなんだから、それに従えと。北朝鮮というのは社会主義国家によくあるように、自分の正統性（レジティマシー）は非常に重視するところがあって、一生懸命アピールするんですね。いかに自分たちが立派な政権で、選挙なんか経てないんだけど、自分たちがいかに正統性のある政権なのかということを非常に強調するという作業を彼らはやっているんです。

ちょうど金正恩さんが3代目になるわけですけども、それぞれ金日成、金正日、金正恩と続くに当たって、正統性の根拠はどこに求めるのかということがだんだん変わってきています。それが今、北朝鮮が置かれている困難な状況にもつながってくるんですけども、それはどういうことなのかという、金日成さんをご存じのように、第二次世界大戦中に抗日パルチザンとして日本軍と戦って、パルチザンでは大変苦勞されて、一時期、ロシアのハバロフスクの近くのヴァツコエという村まで逃げ延びて、そこでソ連極東軍に編入されるなどして辛酸をなめたんですけども、その結果、金日成は国ができたときから、要するに日本と戦ったという正当性を常に持っていたので、彼は別に自分がリーダーだということを強く主張する必要はなかったんです。

ところが、その次の金正日になったときに、金日成はみんなリーダーだと認定していたんですけども、果たして、金正日は本当にそのリーダーとして認定していいのかという議論が北朝鮮の中で起きたんです。金正日がよく強調していた言葉の一つに、私は要するに金日成の息子だから、リーダーになったんじゃなくて、リーダーになった私がたまたま金日成の息子だったんですと。彼はいつもそれを強調して言っていたんですが、そういったことが要するに親子の代を継承させたということが北朝鮮を誤った方向に持っていった一番大きな原因だったと言われているんですけども、そこでいろんな変化が起きるわけです。

例えば、金日成と金正日というのは、同じように肖像画をつくってみたり、媒体を通じてニュース映画を流したり、いろんなことをやるんですけども、いろんな違いが出てくるんですね。例えば、金日成さんというのは、金日成の伝記映画を見ると、いろんな特徴があるんですけども、例えばそのうちの一つが、一般の人たちとよく手をつないで一緒に笑ったりするシーンがたくさん出てくるんです。金日成と一緒にいる人というのは、大体笑ったり、大げさな身ぶり手ぶりをして、金日成に向かって手を振ったりとか、拍手をしたりとか、すごく生き生きしているんですね。金正日のニュース映画を見ると、今度はまた全然違って、金正日の周りには人間を見ると、金正日の周りには人っていうのは、皆さんもごらんになったことがあると思うんですけども、一生懸命メモをとっているわけですね。金正日が何を言ったのかを必死でメモをとって、笑ったりする余裕なんかはほとんどなくて、しかも、一般の労働者だとか、子供だとか、

お年寄りだとか、そういう人はほとんどいないんです。幹部ばかりという状況になっています。

それは、何でそういうことが起きたかという、まず一つは、金正日自身が自分に権力を持つことの正統性がないということをよく自覚していたので、一般の人になかなか怖くて近づけなかったところがあるんですね。一般の人に近づくと、一般の人は当然自分に反感を持っているだろうという彼は恐怖心があったので、自分からは絶対に一般の人に近づかないと。で、周りをいつも幹部で固めておくと。しかも、自分にそういうカリスマ性がないということをよくわかっていたので、何をやったかという、今度は要するに、金正日はスーパーマンであるという宣伝を始めるんですね。それは皆さんもごらんになったことがあるかもしれませんが、北朝鮮はいろんな変なニュースをたくさん流すわけですね。例えば平壤に初めてゴルフ場をつくったら、金正日は全てホールインワンで回ったとか、3歳のときに銃を撃って100発100中だったとか、ありとあらゆることを言って、みんなを驚かせるわけですよ。今はもう皆さん、そんなことを聞いても、北朝鮮の人だって、もう携帯電話を持つ時代ですから、そんなことが本当かどうかというのはわかるんですけども、金正日が権力を持ち始めた1960年代というのは、まだ北朝鮮の中には有線電話だってほとんどないような状態ですから、言われるとそうかなと思うような状況があったんですね。とにかく、そういうカリスマがない、国民に人気がないことを自分がスーパーマンなんだから、信じてもらっていいじゃないかということで置きかえたのが、金正日のリーダーづくりだったんですね。

今、じゃ、金正恩はどういうリーダーづくりをしているのかということをご紹介したいと思うんですが、今、皆さん、私がこういう話をして、当然それはおかしな話だと思われるわけですよ。それは北朝鮮の人でも十分わかっていますから、金正恩を支える人たちも、自分がまた金正日と同じようなことをやったらどういうことになるかというのは大体想像がつくんです。もちろん金正恩さんは非常に軍事の天才で、例えば私が北朝鮮の人から聞いたことがある話の中に、金正恩さんは、昔、金日成軍事総合大学という大学を出たときに、朝の4時から6時までずっと軍事の専門書を読んでいて、入学して2年ぐらいてもう全て教えることがなくなったと。軍事の天才だとか、あとは花火大会というのを平壤で主催したことがあるんですけども、その花火の自動連射システムというのをつくって、15分間で20万発打ち上げて周りを感動させたとか、これもかなり子供じみた話なんですけれども、そういうことも一応やってはいます。やってはいるんですけども、でも、そういうことをやって一般の人がついてくる時代じゃないということは、北朝鮮の人でもよくわかっているんで、今、金正恩さんのリーダーづくりでやっていることというもののまず一つが、お父さんの評判の悪かったことはやらないようにしようということをやっているんですね。

それは一つ一つの事象を見ていくと大きなニュースにならないので、多分、今のソウル特派員の人たちも余り記事にしないんだと思うんですけども、例えば最近こんなことがありました。平壤に2万人の子供を呼んだんですね、金正恩が。全国から2万人の子供を集めて、平壤のいろ

んな名勝見物とかさせたり、一緒に冷麺を食べたりして、一緒に子供たちと楽しい時間を過ごしたと。これは何てことはないニュースなんですけれども、政治的な見方で見るとすごく意味があって、どういうことかという、金正日は物すごく北朝鮮の一般の人に評判が悪いんですけれども、評判の悪い理由の一つが、金正日さんというのは非常に子供が嫌いだったんですね。自分の子供は溺愛しましたけれども、一般の子供には全く関心がなくて、そのうちの一つの例として、北朝鮮では毎年お正月になると、平壤で子供たちが主体になった公演というのをやるんですね。お正月公演、お正月子供公演というような名前がついているんですけれども、それは1954年ぐらい、朝鮮戦争が終わった直後ぐらいから、要するに国づくりで疲れた金日成主席を子供たちも慰めたいということがきっかけになって始まった行事だと言われているんですけれども、党の幹部とか、平壤に住んでいる人たちを集めて、そこで子供たちがいろいろ歌を歌ったり、劇をやったりして、大人を慰めるという公演なんです。

金日成は生前、非常にこの公演が好きで、毎年必ず出席して、子供たちに拍手を送ったりして、またそれがやっぱり金日成は非常に温かい人だという評価を受けている一つの理由になったんですが、金正日さんは、金日成さんが生きていたころは二、三回一緒に行ったことがあるんですけれども、金日成が死んでからは一回も出席したことがなくて、よく言われていたのが、朝鮮総連なんかからも何人か選抜されて行ったことがあって、そういった人たちに話を聞くと、子供たちは必ずお正月の公演で幕があくときになると、まず最初に、中央の貴賓席のほうを見ていると。幕がだんだんだんだん上がってくると、子供たちはそこをまずぱっと見て、そうすると大体金正日に来てないので、あっ、ことしも来てくれなかったと。で、子供はやっぱり泣いちゃうんだそうです。純真なので。泣くんなんですけれども、そしてよく見ると、横には金永南とか、ほかの幹部の人がいるので、あっ、自分たちが泣くと、その人たちが気を悪くするといけなから、ちゃんと踊ろうと思って、涙をふいて踊るというようなことを毎年やっていたんだそうです。それがいろいろところで話題になって、向こうの人は金正日のことはチャンゲンニムと將軍様と言うんですけれども、チャンゲンニムはちょっとひどいよねと、ことしも来なかったんだっていうような話をよくしていたんだそうですけれども、それが金正日の評判の悪い、非常に冷たいとか、人民を愛していないという一つの根拠になっていたんですけれども、多分、恐らくそれを消そうとして、今いろんなことをやっているんだと思うんですね。

あと一つは、例えば金正日の評判の悪いもう一つの理由が、非常に服装がだらしなくて、要するに金正日のジャンパー姿というのは有名ですけれども、これも金正日本人は、いや、自分は形式にとらわれないんだと。自分はいつも働いているんだから、この格好でいいんだと言うんですけれども、でも、非常に礼節なんかを重んじる朝鮮半島の人にとっては、ちょっと下品じゃないのと。やっぱり目上の人に対して非常に失礼だというような意見があって、それが金正恩を見ると、やっぱり人民服を一生懸命着てるわけですね。もちろん、金日成さんのような庶民的な雰囲気を出すために、ちょっとボタンを外してみたり、麦わら帽子をかぶったり、いろんなことして

いますけれども、それも金正日さんのよくなかったことを一生懸命打ち消して、真面目にやらせていただきますと、彼なりのアピールであるということを私は聞いたことがあります。

一生懸命そういうことを金正恩さんはやっているんですけども、じゃ、そうしたリーダー像づくりが果たしてそのまま北朝鮮の金正恩体制と言われる政治体制の安定につながっていくのかということを考えていくと、じゃ、どんなことをやって北朝鮮は国を治めていたのかということ、よく言われているのに3つの手段があったと。

1つは経済による統治、2つ目が思想による統治、3つ目が暴力による統治と言われていて、北朝鮮はこの3つを使って一般の人たちを一生懸命統制しようとしてきたわけですね。

経済による統治というのは簡単なんですけれども、配給制度を維持することによって、要するに国の定めた企業所にちゃんと出勤して、ちゃんと仕事をすれば、そこでお金やクーポンがもらえて、そうすると国の経営する商店に行くと、そのクーポンを出せば、非常に安い値段で、お米やいろんな服とかが買えて生活できると。だから、国にちゃんと従いましょうねと、これが経済による統治。

それから、思想による統治というのは、生活総和ということを実は大体毎週土曜日にやるんですけども、みんな、こういった集まり、地域の人たちが集まって、今週の生活総和をやりましょうと。まず金正日総書記のお言葉がありますと。みんな暗唱しましょうとか、金正恩さんも、金正恩が優秀であるということを実証するとか、リーダーづくりの過程で、金正恩が優秀な10個の実例があるというものを生活総和で出したことがあるそうです。みんなで10個暗唱しましょうと。10個ちゃんと言えたら、本当に北朝鮮にとって忠誠心のある人だと認めましょうというようなことをいって、一生懸命覚えると。

3つ目、暴力による統治というのはもうご存じのように、そういうことをやって、そんなこと、俺、やりたくないよとか、もう関心ないからとか、そういう人は、わかりましたと。じゃ、収容所に行ってもらいましょうと。

私の友達で、今、もう韓国に亡命した金日成総合大学で教えていた大学の先生がいるんですけども、金日成総合大学というのは党の委員会というのがあって、そこで生活指導をしているわけですね。例えば彼なんかは生活総和のときに、大学の先生たちを集めて、今週の金正日將軍のお言葉を伝えますと。じゃ、みんな一斉に暗記してくださいとあって、しゃべるわけですね。そうすると、みんな必死になって書き取るわけですけども、僕の友達の先生は、一生懸命書くんですけども、党の幹部がすごく速いスピードでしゃべるので書き写せなくて、しょうがないから、金正日はキとか、金とかと書くだけで、簡単にメモしていたらしいんですね。後で直せばいいやと思っていたら、たまたま忙しくてちゃんと清書しないうちに、突然いわゆる検査が入って、その教授の身体検査というのが行われて、出てきたのを見られて、要するに金とは何だと。ちゃんと金正日將軍様と書いてないと言われて、彼は1カ月ぐらい思想をちゃんと徹底してないと、勉強してきなさいと言われて、収容所じゃないんですけども、そういう党幹部が入る思想、考

え方をちゃんと改めるような教習所に送り込まれて、本当に大変な思いをしたというようなことをいうぐらい、徹底して統制するわけですね。そこで反抗して、もういいと、そんなことやりたくありませんと言うと、本当に収容所に行っちゃうことになるんですけども、そういうこの3つの統治をしてきたわけです。

では、今の北朝鮮というのは、この3つの統治はちゃんと効いているのだろうかという話を、私は最近ちょっと取材をして聞いてきたお話をちょっとご紹介しようかと思うんですが、まず一つとして、経済は基本的にもう崩壊しているわけですね。北朝鮮はご存じのように、1995年から96年ぐらいにかけて、「苦難の行軍」と言われる大規模な飢饉がありました。非常に食糧不足に陥って、少なくとも30万人ぐらい、多いと200万人ぐらいの人が亡くなったと言われてはいますが、少なくとも私の知っている人でも、地方の都市なんかではかなり餓死者が出て、大変なことになっていたと。当然、配給もとまっていますし、最近では平壤では何とか配給は続いているんですけども、地方都市では全く配給がない状態だと。

じゃ、一般の人たちはどういう生活をしているんでしょうかということを知りたいんですが、今、北朝鮮の人の給料というのは、平壤で大体平均で1カ月、国の企業所に勤めると、大体2,000ウォンから3,000ウォンの給料がもらえるんですね。今、公式レートが1ドルが100ウォンですから、20ドルとか、30ドルとか。だから1,600円とか、2,000円とか、そんな感じですかね、1カ月。そのぐらいの給料を彼らはもらっていると。だけど、お米は1キロで大体4,000ウォンぐらいするわけですね。お米を1キロ買うと、1カ月の給料が全部吹っ飛んじゃう計算になっていて、当然、国が与えてくれる経済力では生活ができない状態になっていると。

でも、平壤に行った人の話なんかを聞いてみると、意外とみんな楽しそうにビールを飲んだり、ビールも1杯50ウォンとか安いんですけども、みんないろいろ楽しい思いをしていて、あと金正日さんが最後に現地指導をしたと言われているスーパーでは、いろんなものが売られているんですけども、そこは平壤では珍しく、配給チケットとかがなくても、行ったらそのまま買えるという、日本のコンビニと同じような感覚でものが買える場所だそうなんですけれども、そこではみんな、1回あたり2,000ウォンから3,000ウォンぐらいの買い物をしていると。

じゃ、何でこの人たちは1カ月の給料を一回の買い物で使うぐらいの経済力があるんだろうかと。いろいろ聞いてみると、何が起きているかということ、いわゆる韓国の経済学者がよく言うんですが、今の北朝鮮は冷戦崩壊直前の東ヨーロッパみたいな状況にあるんじゃないかという説が非常に強いんですね。それはどういうことかということ、一番よく似ている国家が冷戦崩壊のようなハンガリーに似ているという人がいましたけれども、いわゆる第二経済、一般の民間経済というのが発達し始めていて、国が経営している経済をどんどんどんどん圧迫し始めているというんですね。それはどういうことかということ、大体発展途上で経済が発展すると、そういう過程が起きるんですけども、例えばお医者さんがいますと。国で働くお医者さんが朝9時から午後5時までお医者さんとして国のお医者さんとして仕事をすると。でも、午後5時から自分でお

店を出すと。自分が個人の病院として経営して、夜8時まで自分のお金を稼ぐというようなことが北朝鮮でもだんだん起きているんですね。

例えば、北朝鮮ではさっき申し上げたように、国の企業所には絶対行かないといけませんから、一族だとか、家族で1人は必ず、じゃ、おまえ、右代表で行ってこいと。で、行くわけですね。そこに行くと、企業所で仕事がないので、ブラキンしているわけですよ。もちろん、企業所自身が今、独立採算性とか、いろんなことをやっていますから、頑張っている企業所では売れるものを売ったりして、結構商売もできるみたいですが、大抵の企業所はものがないので、みんなぶらぶらして、遊んで、2,000ウォンもらって帰ってくると。残りのほかの家族は何をやっているかという、じゃ、市場に行つて、ちょっとお金を持っている人だと、例えば自分で商品をどこかから仕入れてきて、それを売ると。全然元手のない人は、例えば冬になったら、北朝鮮は冬は寒いですから、どんな暖房設備があるかという、練炭が大体主な暖房手段なんですけれども、じゃ、私は練炭を運びましょうと。それも練炭運び価格表みたいなものをつくつて、例えばアパートの1階から2階まで上げたら幾らとか、1階から3階だと幾らとかいうのをつくつてアルバイトにしちゃうとか、あと例えば自転車を私は修理できますとか、いろんなことを自分で考えるそうなんです。私は経験ないんですけども、戦後の日本の闇市みたいな雰囲気だという方もいらっしゃいました。そういうふうに、自分たちだけで経済をぐるぐる回しているわけですよ。

北朝鮮というのは、もちろんそういったことをすることは要するに社会主義を放棄する行為ですから、昔は一生懸命取り締まっていたわけですね。要するに皆さん、そんなことしないでくださいと。自分たちはちゃんと国が面倒見てあげるんだから、君たち、そんな勝手なことしてもらっては困りますと。市場にいる人は、全部市場で何かもの売ったりしていると取り締まって、収容所に送っちゃうとか、そういうことをしていたわけですが、最近はだんだんそういうことができなくなっているわけですね。

最近、平壤に行ってきた人に話を聞いて、これはオフレコだと言われたので、記事には書いちゃいけないそうなんですけれども、ツイッターとかで書かないでくださいね。僕がネタ元に怒られるので、そういうのは書かないでほしいんですけども、最近、平壤ではやっている言葉の一つに、まず一つが、「キルコリカゲ」というのがあるんですね。「キルコリ」というのは「街角」、小さな辻みたいなのをキルコリと言うんですけども、「カゲ」というのは「商店」のことなので、そういうところに商店を出している人のことをキルコリカゲと言うんですけども、それは要するに国公認の市場に行くと、国にショバ代を納めないといけないので、お金のない人はそういうところで、当然ですけども、ものを売るわけですよ。だから、アパートの裏側とか、そんなところでいろいろ売ったりするんですけども、そうすると、当然ですけども、国の警察の人とかが怒つて、何やってるんだと。そんなところでものを売っちゃいかんじゃないかとかいって、いっぱい取り締まられるわけですね。そうすると、今度何が起きるかという、これはど



この国も一緒なんですけれども、今度は「バッタカゲ」というのが生まれて、それは要するに一つの机に全部ものを並べておいて、警察が来ると、みんなそれをまとめてバッタのように逃げると。だからバッタカゲと言うんですけれども、そうすると、そういうことをどんどん見ていると、通行人たちが今度は刑事さんに食ってかかっていると。おまえら、俺たちを食わせもできないのにいいじゃないかと、そのぐらい。売ったって問題ないだろうと言って、そうすると周りの人もそうだ、そうだ。お巡りさんはよくないよねということを出して、そうするとその人たちも、そうだ、そうだ。俺、自分の子供を食べさせなきゃいけないんだから、やらせてもらうよと言って、今度は居座ると。そういうのを「居座りカゲ」と言うらしいんですけれども、本当に平壤の人はそういう言葉を使っているらしくて、そういうのはもちろん公式に取材に行ったりすると、そんなことを言ったりすると大変なことになりますから、言いませんけれども、今はだから、バッタカゲだとか、そういう居座りカゲとか、そういったものがだんだん生まれるような状態になっているんだそうです。

そういうのを見ていて一つ思うんですけれども、いわゆる経済的なことだと、余り国も文句言わなくなっているという、政治的に非常に金正日バカとか何とかと言うと、それはしょっ引かれますけれども、経済のことを言われるぐらいはもう許してやろうと。そこを取り締まり始めると、収集がつかなくなっちゃうわけですね。だから、そのぐらい国の統制というのがかなり緩んできているのも一つの現象なんだと思います。

逆に考えると、一般の人も昔は国が一生懸命面倒を見ていたので、当然、当たり前ですけれども、国が一生懸命やっていたら、国のほうに関心が行くわけですね。だから、昔は北朝鮮の人たちは御飯を食べると、いや、最近では金日成主席の顔色が悪いけれども、大丈夫かなとか、そのうち現地指導でうちに来てくれないかなとか、そのことを結構しゃべっていたそうです。それは当然で、例えば現地指導というのも、よく皆さん、何であんな現地指導ってやるんだらうというふうに思われると思うんですけれども、昔はあれが現金の分配手段だったんですね。有名な話ですけれども、金日成主席が歩いていて、後ろでジュラルミンケースを持ったおつきの人がいて、金日成が見て回って、君、なかなか頑張っているねと言うと、ありがとうございますと。幾ら欲しいのと言って、じゃ、このぐらいと言うと、出してやれと言って、このジュラルミンケースからお金を出して渡していたんですね。どこかのヤクザみたいなやり方ですけれども、そういうことをやっていたんですね。だから、みんな本当に来てほしくて、金日成主席が現地指導に来ると、みんなすごく狂喜して喜んだそうですけれども、例えば朝鮮総連の人なんか、今、平壤駅の前に平壤食堂という食堂を持っているんですけれども、これは総連を担当している部署が、その総連をたきつけてつくらせて食堂なんですね。そこに行くと、たこ焼きとかも食べられるそうですけれども、要するにそれは、総連を担当している部局が、うちは一生懸命やっていますと。総連にたくさんお金を貢がせていますということを將軍様にアピールしたくてつくった食堂なんだそうですけれども、彼らの目標は、とにかく將軍様に絶対そこに来てもらうと。たこ焼きおい

しいじゃないかと、頑張れと言ってほしかったんですけども、金正日は遊園地までは来たんですけども、平壤食堂には来なくて死んじゃったので、すごがっかりしているという話を聞いたことがありますけれども、そのぐらい経済でそれだけ国が面倒を見ていると、一般の人もやっぱり国に関心はたくさん持っていたんですね。

ところが、今は、じゃ、どうなんだろうと聞いてみると、今はそういうリーダーがどうだとか、金正恩、ちょっと健康は大丈夫かなとか、そんな話は全然出ないそうです、やっぱり。何が出るかという、いや、ここの市場はお米が安いとか、あそこはアルバイト、こんなことを募集していたとか、やっぱりそういう話になるんですね、当たり前ですけども。そうなるから、だんだん国のことに関心がなくなってくるわけですね。国がどうなってもいいじゃないかと。自分たちは自分たちで生活しているんだし、その中で生活していけばいいと。

もちろん、これがどんどんどんどん過激な方向に走り始めると何が起きるかという、いや、こんなに働いているのに生活がよくなるのは、やっぱりおかしいという話になって、国は何やっているんだろうという話になるんですけども、そこはやっぱり、3つの統治のうちの最後の暴力による統治がしっかり効いていますから、これはどんなふうに効いているかという、大体国家安全保衛部という秘密警察があるんですけども、国家安全保衛部員自体がそんなにたくさんいるわけじゃないんですが、彼らは必ず協力者をつくるんですね。その人民を統治するのが彼らの仕事ですから、大体地方の職場とかに行くと、そこ大体見込みのありそうなやつに声をかけて、俺の手下にならんかと。手下になったら、いろいろ便宜を図ってやるぞと言って、大体10人いれば1人か2人、30人に1人だったかな、とにかくそのぐらい必ず国家保衛部の手下というのがいるんだそうです。だから、極端な話をすると、大家族ぐらいになると、1人ぐらい国家保衛部の協力者がいることになって、絶対言えないと。だから、さっき私が紹介した金日成総合大学の先生も、そういう反発というか、反骨心が強いから、最後は脱北して韓国に来たんですけども、彼のお母さんが大学に出勤する息子に、必ず毎日声をかけて、あなた、いろいろ気持ちはわかるけれども、絶対言っちゃだめだと。本当につらいことがあったら、私に言いなさいと言って、毎日自分のお母さんがそう言ってくれたというぐらい、本音でもの言えない世界ですから、関心がないとか、全然話題にしないことぐらいで逮捕されたりすることはないので、いいんですけども、それが、中東のように、じゃ、政府打倒だとか、そういう話にはなかなかないということなんじゃないかと思います。

一方で、さっきも申し上げたんですけども、北朝鮮も閉鎖国家とはいえ、いろんな情報が入るようになっていきます。それは私の友達が北朝鮮の地方に行ったときに驚いて、教えてくれたんですけども、びっくりしたのは、どんな貧しい家でもDVDが置いてあったと。DVD、これ、どうしたのって言うと、うん、1台25ドルぐらいで買えると言っていました。どの家にもDVDがあって、結構貧しい脱北者の人に話を聞いても、君、北にいるときに娯楽って何だったの？と聞くと、電気が来るときはDVDで、電気が来なくなるとカードをやっていましたとか、結構み

んな見ているんですね。韓国のドラマとか好きですし、韓国ではやったものが北朝鮮ではやるのに、時間差がだんだんなくなってきていると言われていて、いろんなことを彼らは知っています。だから、金正恩さんが非常に優秀だとか、いろんなことを言っても、なかなか通用しない部分が出てきているみたいです。

例えば、ことしの1月に北朝鮮の漁船がちょっと遭難して、日本で一時海上保安庁なんかが保護した事件があったんですけども、そのときはたしか、四、五人生存者がいて、彼らは非常に真面目な人たちだったらしくて、当時、取り調べた人が、私、政府に友達がいたので、どんなふうだったのと聞いたら、それも例えば、自分たちは労働党員であると名乗っていたと。労働党員であることを非常に誇りにしている様子で、早く將軍様の懷に抱かれたいから返してくれと騒いでいたと。僕の友達もいたずら好きなので、でも、將軍は死んじゃったよと言うと、うそだと言って、でも、労働新聞があるから見せてあげようかと言うと、そんなものにだまされないと行って、すごく真面目な人たちだったらしいですね。

じゃ、そんなに金正日の北朝鮮っていい国なのと。息子もいるけれども、息子は何か余りだめそうだよねという話をする、ばかにするなと。金正恩大將はとてもいい人だということを彼らは言うんだそうです、一生懸命。じゃ、金正恩さんが優秀だと言うけれども、じゃ、どんなふうによいものと言ったら、彼らがそこで一生懸命考え出して、えーと、えーと、たしかって考えて、それは例えば金正恩が3歳で車を一人で運転したとか、それは確かにあるんですよ、そういう項目が。一生懸命頭を絞り出すようにして、3つぐらい言って、あとは黙っちゃったという話なんですね。

これは私、別の人から聞いて、さっきもちょっと申し上げたんですけども、当時の北朝鮮では生活総和で忠誠心を発揮するためには、金正恩さんの偉大さを10項目言わなきゃいけないんですけど、本当は、10項目言えて初めて忠誠心があるという状況の中で、彼らは3つしか言えなかったと。だから多分、彼ら自身は真面目な人たちで、一生懸命金正恩さんのことを褒めようと思ったんでしょうけれども、やっぱりふだんの関心がもうそこにはないので、やっぱり身が入らないんですね。だから10個も覚えられなくて、3つぐらいでとまっちゃっているんですけども、そのぐらい気持ちがちょっと離れているということがあるんじゃないかと思います。

そういったなかなか経済で縛れない中で、じゃ、北朝鮮は今後どういうことをしてくるんだろうと。特に日本に関係のあるところで、一体、北朝鮮は何を我々に求めてくるんだろうかということを見ると、一つ言えることは、やっぱり北朝鮮は今、まずお金がないわけですよ。さっき申し上げたように、この100周年のためにいろんなお金を使いました。例えば、柳京（リュギョン）ホテルという、皆さんごらんになったことがあるかもしれません、この三角形の105階建ての大きな、巨大なホテルがあるんですけども、1980年代にフランスの企業と契約して、それをランドマークとしてつくったんですね。つくったんですけども、途中で経済が傾いてきて、フランスの企業が撤退して、ずっと野ざらしになっていて、幽霊ホテルとかと言われてたんですが、

それをエジプトの企業に助けてもらって、この100周年に合わせて外装パネルだけ全部はめたんですね。だから、ガラスが入って、外から見るときらきらきんで、何かすごく立派なものになっているんですけども、私が北朝鮮の人に聞いたところでは、たとえオープンしたとしても、せいぜい下層階の20階ぐらいまでしかできないだろうと。それは朝鮮総連の昔、関西地方に住んでいらっしやる有名な建築家が北朝鮮に呼ばれて、このホテル、何とかならんかねと言われて調査したそうなんですけれども、建築自体に相当無理があって、要するにホテルがゆがんでいるそうなんです。ゆがんでいるので、エレベーターが上がりませんという話で、だめですと言ったんですけども、諦めが悪くて、そのままつくっちゃったんですけども、そのぐらい非常に厳しい。だけど、そんなものでもやっぱりつくっちゃうと、無理やり。

あと、例えば北朝鮮、この100周年に合わせて何をつくったかという、30万キロワット級の熙川（ヒチョン）発電所というのをつくったんですけども、水力発電所なんですけど、これ平壤の非常に厳しい電力状況を解消するとうたわれていて、金正日将軍が何度もそこに視察に行って、要するに叱咤激励したと。何か金正日はそれで叱咤激励だけじゃまずいと思ったのか、プルコギをみんなに配って、みんなが喜んで食べたという壁画だけ残っていて、食べた写真とかは出てこないんですけども——食べていないんじゃないかと思うんですが——そのぐらい力を入れて、そしたら、一般の人もわかりましたと。じゃ、本当は2015年までかかりますけれども、2012年までに完成させましようというて、本当に完成させちゃったんですね。

だけど、それもやっぱり当然裏があるわけで、何が裏があるかという、北朝鮮というのは基本的に機材がないんですね。昔、僕の友達のドイツのNGOの人がいたんですけども、この人がいろいろクリーンエネルギーをやると、国連から今お金がもらえるシステムがあるんですね。要するに二酸化炭素を排出しないので、そういう事業をやると、国際社会からお金がもらえると。ということをNGOが教えてあげたら、北朝鮮がいいですねと。じゃ、うちもやりますから見に来てくださいというふうに言われて、地方の熙川のでっかい発電所じゃないですけども、小さなダム現場に行って、見て驚いたのが、川があって、向こうのほうに小さなトラックがぼつんと1台とまっています、これだけですかと聞いたら、これだけですよと言われて、その人はすごく驚いたんですけども、気をとり直して、きっとあのトラックに何か小さいけれども、資材が入っているんだろうなと思って見てたら、いきなりそのトラックから音楽が流れ出したというんですね。要するに政治的に北朝鮮ってよくやるんですけども、田植えとか労働現場で政治的なプロパガンダの音楽を流して、鼓舞するわけですよ、みんな頑張れとか。要するに、軍歌がずっと流れているだけのトラックで、あとはみんな手でやっていたんですね。ダムをつくるために一生懸命土砂を掘ったり、スコップぐらいあったかもしれないけれども、もう全部人力と。そのぐらいの国なんです。

だから、熙川の発電所をつくったときに何が起きたかという、そんな巨大なものを、しかも2015年までかかるものを2012年につくったものですから、物すごく危ないダムができたわけで

すよね。当然、人力というと、一般の専門家がたくさんいるわけじゃなくて、例えば軍人をかき集めて、軍人につくらせますから、北朝鮮の軍人って基本的に土建屋さんですから、彼らは。体のいい労働力として使われているので、もちろん士気もかなり落ちているし、とにかく寝ないでつくれと言われてるので、一生懸命つくったそうですけれども、はたから見ていると非常に水漏れもしそうだし、勾配率も全然計算に合っていないし、大丈夫かね、こんなのっていう状況のものできたんだそうです。

それは、例えば5月や6月に平壤に行った人たちが言っていましたけれども、今、平壤でやっていることのひとつが、4月にこのパレードに合わせてお披露目した建物を一回みんな閉めているんですね。要するに4月に合わせなきゃいけないので、無理やりオープンして、外国の人が帰ったら、もう一回閉めて、もう一回つくり直しているわけです、一生懸命。ということが起きている。

あと、それでも特権階級には何とか食べさせていかないと、特権階級ぐらいは支持してもらわないと、金正恩体制はもちませんから、特権階級にはそれなりのものをつくろうとしているんですけども、それでもそういったものを見に行った人が言っていましたけれども、こういった備品とか、窓ガラスとか、いろんなものを見ると、何がわかったかということ、全部中国製だということですね。北朝鮮というのは物すごく誇り高い国で、中川さんみたいに、我が社の先輩の方たちが平壤に行かれたときに経験があると思うんですが、昔は日本からいろんなものを輸入していたんですけども、それを無理やり北朝鮮ブランドにしていたんですね。例えば日立のカラーテレビをチンダルレといって、タンポポという名前の北朝鮮製のカラーテレビですと言い張ってみたり、いろんなことをしたことがあるんですね。そのくらい誇り高い国なんですけれども、もうそんな余裕もないわけです。

この前ちょっと記事にも書きましたけれども、今、北朝鮮ではやっているのが中国語ブームで、北朝鮮の人は中国というのは警戒心もあって、そんなに中国好きという風土じゃないんですけども、何でそんなに中国語がはやっているのって聞いたら、要するに中国語がわからないと、電化製品を使えないというんですね。要するに説明書が全部中国語なので。北朝鮮は漢字を廃止していますから、漢字を読めない人がいっぱいいるので、今から漢字を勉強していますと言っていましたから。

あと、中朝国境なんかに行くと、もう中国沿いの都市はほとんど中国のお金しか通用しないと。だから、北朝鮮のお金よりも中国のお金でないと、ものが買えない状況になっているという話も聞きました。だから、経済的にもかなり侵食されているんですね。

ということですから、まず、お金がないと。だから、さっき申し上げた為替レートもどんどんどんどん今値段が上がって行って、2009年11月にデノミネーションやったときは、1ドル100ウォンでしたけれども、4月に行った人の話だと、1ドル4,150ウォン。この6月に行った人に話を聞いたら、4,600ウォンぐらいに上がっていたそうです。どんどんどんどん紙くずになっているわけですね。それだけ外貨がないということですから、要するに外国のお金がないので、みんな

必死になって外国のお金を探しますから、そうすると、外国のお金がどんどん上がっていくという、こういう構図なんです。

そうすると、当然、北朝鮮としてはお金が欲しいと。どうするかと。ぱっと見て、当然、それは日本を考えますよね、日本と仲よくして、日本と国交を正常化すればお金がもらえるかもしれない。それは彼らなりにそういう計算はしていますから、日本と何とか国交正常化をできないかなということとは当然考えると思います。

ただ、北朝鮮も拉致問題とか、そういったことでいろんな手ひどい思いをしていますから、必ず政権交代が起きると、北朝鮮関係の人と話をしていると出てくるのが、今度の政権はいつまでもちますかと。野田さんは大丈夫ですかと、必ずそれを聞くんですね。彼らも勝負できる相手かどうかというのを常に考えていて、今すぐ混乱して、消費税が上がって、もう野田政権が倒れるかもしれないという状況で、日本とすぐに交渉しようという話にはなかなかならないと思いますけれども、いずれ必ず日本に秋波を送ってくる時期が来るんじゃないかと思います。

一方で、北朝鮮は、そもそも金正恩体制がそんな状況でもつんだらうかと。一体こんなことをやっていて、外貨もないし、やっぱり金の切れ目が縁の切れ目ですから、幹部たちもそこまで金正恩に従うだろうかということ考えたときに、じゃ、今、金正恩は一体どのぐらい北朝鮮の中を統治しているんだらうかということ私をよく考えるんですね。北朝鮮というのは非常に特殊な政治形態をとっていて、いわゆる金日成さんのころ、1965年ぐらいに金日成さんと敵対するいろんな派があったんですけども、ソ連派とか、中国派とか、いろんなものがあったんですけども、そういったものが全部粛清された後は、全部一党独裁になるわけですね。一人独裁ですね。金日成独裁体制になって、唯一指導体系というのできるんですけども、その後起きたものが、何が起きたかという、金日成と金正日に書類を送ると。当時、金正日さんというのは1964年ぐらいにたしか朝鮮労働党に入党して、1973年に事実上の後継指名を受けて、1980年10月の党大会で公式に後継者に指名されるんですけども、その過程で金日成さんがリーダーなんですけれども、金日成さんに決裁してもらうために、そのコピーを金正日さんにも渡すということを最初はやっていたんだそうです。そのうちに金正日がだんだん力を持ってくると、金正日が、いや、首領様もなかなか年食ってきて大変だから、そんなに働かせたらかわいそうだと。私に持ってきなさいといって、金正日にだけ書類を渡すようになって、そこで金正日が必要だと思ったものだけ金日成に渡すということを始めて、究極的には金正日が全ての書類にサインするという政治になったんですね。

金正日が何であんなに権力を持っていたかということ、とにかく法律よりも金正日のサインが全てだったわけですね。私の友達で、また北朝鮮の外務省に勤めていた人がいるんですけども、北朝鮮の外務省の人が言っていて、いや、北朝鮮外務省って仕事、どんなふうに変なだったんですかと聞いたら、夜中の勤務がきつかったと彼は言うわけですね。夜中の勤務って何ですかと。何か残業でもしていたんですかと言うと、要するに金正日が官邸に入って仕事を始める時期が一

番大変なんだと。金正日が当時仕事をしていた時間帯というのが、夜の11時から大体朝の3時から4時ぐらいまで彼のオフィスアワーで、迷惑な人ですけれども、仕事を始めるんですね。そうすると、彼は当時、アフリカを担当していて、アフリカ担当課長だったんですけれども、アフリカというのは北朝鮮にとって非常に大事な、当時、韓国と国連に加盟できるかどうかという争いをしていましたから、票田だったんですね。だから、アフリカを引きつけておくというのが非常に大事なことで、北朝鮮はアフリカにすごく投資したんですけれども、だからアフリカ担当課長というのは非常に重要で、何をやったかという、稟議書を一生懸命書くわけですね、金正日に。こんなことをやっていいですかとか、こんな人を呼ぼうと思いますけれども、サインしてくださいとか、こういう事業をやりたいので、晩餐会やっていいですかとか、そういう書類を送ったんだそうです。じゃ、そういうのは例えば外務省から一晩のうちに金正日に何枚ぐらい送ったんですかと聞いたら、まあ、平均50枚ぐらいかなと言ったんですね。外務省だけで50枚ですから、ほかの部署もたくさんあるわけですよ。それがどンドン官邸に送られるわけですね。で、僕が聞いたんですけれども、じゃ、金正日に送らなきゃいけないファクスの一番簡単なやつという、どんなものがありますかと聞くと、例えばロシアのモスクワに留学している留学生が外出して一晩帰ってきませんと、どうしましょうかと、これ必ず送らないといけない。だから、金正日は全部見ているわけですね。呼び戻せとか、そういうことを書くんですけれども、そんなことやっていましたから。

金正日のサインって、どんなサインなんですかと聞いたら、3種類あると。要するに金正日は機嫌がいいと、金正日と書いて、よく頑張っているとか、なかなかいいとか、今度飯食おうと書いてあるんですね。そうすると、もう本当に天にも昇る気持ちで、すごくハッピーだったと言うんですけれども、普通は名前だけというので、だめだったり、不満があると、要するに何も書かずに送り返してくるらしいんですね。

ある日、その課長が外務省に出勤すると、今ナンバー2の金永南さんという、当時、外務大臣だったそうですけれども、その人が真っ青な顔で幹部を集めて、みんな座れと。大変なことになったと。見せたのが、その白紙の何も書いていない稟議書が返ってきていて、それは何かというと、当時、金日成のお祝いのためにアフリカの首脳をたくさん呼ぼうと。で、国際的な式典をやるということになって、そのノルマがあったらしいんですね。アフリカからは、何か国とか、北米から何か国とか、世界の何か国を呼ぶというのがあったんですけれども、アフリカもだんだん、あの人もわがままですから、幾らくれないと行かないとか、もうこの前行ったから、行かないとか、いろんなことがあって達成できなかつたらしいんですね。何か8割ぐらいしか達成できなくて、でももう時間も迫っているし、もうえいやーで稟議書を上げたら、当然のように白紙の稟議書が返ってきて、金永南が、君たち、全員クビになると思ったほうがいいと。本当に手が震えていたそうですけれども、稟議書を持って。そのぐらい強烈なものがあったんですね。

でも、一たび金正日がオーケーだと言うと、もう要するにサインしてありますから、それが予

算を超えていようが、法律違反であろうが、もう通っちゃうわけですね。これを持って行って、金正日、将軍様がくださいと言っていますから、出してくださいと言うと、はいとくれるわけですよ。

そういうことをやっていたから、何が起きるかという、金正日は金正日で、この国で何が起きているかは彼の頭の中に全部入っているわけですよ。誰と誰の人間関係がどうだとか、こいつをたたくと誰が大変なことになるとか、そういうのが全部頭に入っていますから、そういうことを全部コントロールできる状況になった。

じゃ、金正恩が今、そういうことができるだろうか。金正日はそういうことをやるためには、1960年に労働党に入って、金日成が死ぬ1994年まで30年間あったわけですよ。金正恩に与えられたそれだけの時間というのは2年間ぐらいいきありませんから、どんなに頑張っても、50枚を100枚のファクスに変えたとしても、そんなに簡単にはいかないと思うんですよ。

北朝鮮にもいろいろな人がいますから、複雑な人間関係が絡み合っていますし、多分、今やっているのは恐らく張成沢さんとか、金正日の妹のお婿さんですね。彼が非常に力があると言われていて、彼はもともと江原道の出身で、何か家族に韓国と関係のある人もいるとかといううわさもあったりして、余り出自がよくわからない人なんですけれども、でも、兄弟全員が軍人になったり、権力を持っていて、非常に張成沢の周りには人がいるという評価が常にあって、何度も何度も昇進したり、粛清されたり、昇進したり、更迭されたりして、今まで生き残ってきた人なんです。だから、彼が今の北朝鮮で一番人脈を持っていると言われて、朝鮮労働党の政治局員なんかのメンバーを見ても、張成沢さんと昔一緒に働いていたという人がたくさんいるんですけれども、そういう人の力を今かりているんじゃないと言われてしています。

これは今回が初めてじゃなくて、実は金正日さんも朝鮮労働党に入るときに金日成は何をやったかという、自分の弟の金英柱という人がいるんですけれども、この人に金正日を預けたんですよ。金英柱という人に面倒見てやってくれと、俺の息子だし、鍛えてやってくれってということで、当時、金英柱という人は組織指導部というところの書記をやっていたんですけれども、北朝鮮の労働党で組織指導部というのが一番力のあるポジションなんですよ。ここ人事を握っていますから、この人間が全ての幹部の人事を動かすことができるので、非常に力があって、金正日はそこに預けられて、いろいろしごかれるわけなんですけれども、当時、韓国政府、当時、政権を持っていた人に話を聞いても、自分たちは後継者は金英柱だと思っていたというんですよ。ところが、ある日、突然、金英柱が更迭されて、金正日が組織指導担当書記になるんですよ。それは要するに、もう育ててもらって、自分のほうが力が逆転して、金正日がそこで自分で権力を奪ったわけですよ。だから、今、韓国政府とかが注目しているのは、そういったことがもう一回起きるのかどうなのかと。張成沢という人をだんだん使っていくうちに、金正恩が自分が力を蓄えて、もう必要ないと思えば張成沢さんを切るでしょうし、そうでなければ共存共栄ということも考えるでしょうし、ただ、何よりも国自体の体力が今非常に落ちているので、そういう内輪もめをし



ていていいのかという状況もあるでしょうから、その可能性がどうなるのかというのはわからないんですけども、今はそういう状況にあるというふう聞いています。

今言えるのは、最近の話で申し上げますと、北朝鮮はこの過程で明らかにちょっと混乱している部分があるんですね。それは、ことしの2月に北朝鮮とアメリカとの間で、要するに挑発行為をしない。そのかわりにアメリカは北朝鮮に対して食糧支援をしたりするという合意をしたんですけども、その合意をした2週間ぐらい後に北朝鮮は長距離弾道ミサイルを発射するという発表をして、世間を驚かせるわけですよ。あのときも北朝鮮が発表する直前に李容浩さんという外務次官がニューヨークにいて、僕の同僚に教えてもらったんですけども、ニューヨークの空港で、自分の目の黒いうちはアメリカとの約束を破ることは決してないと彼は言い放って飛行機に乗って、次の訪問地のモスクワに着く間にその発表があつて、ミサイル発射しますと言われて、李容浩はモスクワに着いて、すごい慌てたそうですけれども、そのぐらい混乱があつたんですね。一般の人なんかには言わせると、そんなことしなきゃいいのにと。要するに、ミサイルを発射しておいてアメリカと合意すれば、アメリカだって文句言わなかったでしょうし、アメリカと合意したら、そんなミサイルなんか発射しないほうがいいわけだし、明らかにむだなことをしているわけですよ。

北朝鮮というのは、その局面、局面でよく態度が変わるんですけども、よく計算していて、とるものを全部でってから態度を変えるというのが彼らのポリシーですから、とるものをとらないうちに態度が変わつたというのは非常に珍しいケースで、それ自体がやはり混乱しているというか、要するに昔は金正日に全部情報が上がってきて、金正日が頭を整理して、じゃ、今はこうしましょう、こうしましょうということをやっていたのが、今はそういうことができなくなっているのではないかとされています。

あと、この4月の記事に書いたパレードですけども、このときも実はかなり混乱があつて、私が聞いたのは、ロシアの代表団が物すごい怒っていたそうですけれども、それはどういうことかという、こういったパレードになると、当然トップが出てきますから、北朝鮮は物すごくセキュリティチェックをするわけですね。だから、パレードが10時から始まりますというと、大体一般の人は7時ぐらいに会場に入れられて、身動きできないようにして、完全に安全を確認して、それから幹部たちが出てくると。トップは大体開始5分前ぐらいに出てくるとというのが通例なんですけれども、そのときにロシアは閣僚級の人を送り込んだんですけども、閣僚級でもやっぱり2時間前には現場に来てくださいと言われて、現場に行ったら、椅子も何もなかったそうなんです。2時間ずっと立たされて、始まって、明らかに横で見ていると、ロシアの代表の人が物すごい不機嫌そうな顔をしていて、金正恩が演説して、ロシアの代表団だけ拍手しなかったそうですけれども、これももちろんそういうマイナスの点は出ないので、報道は当時されなかったみたいですけども、そのぐらいやっぱり混乱があるんですね。だから、そういう完璧にやっているように見えて、結構どたばたしているというのが私は取材をしていても感じる部分で、こ

れからはそういったことが、さっき申し上げたように、日本との正常化交渉をやって、お金を稼ごうとか、平和的な手段でアクセスしてくるならいいんですけども、逆に、じゃ、軍事的に挑発して、緊張を高めて、何かものをもってやろうとか、そういう考えになってきたときに、本当に問題が起きると。

例えば、今、アメリカと韓国なんかは非常にそういったことに対して緊張しているんですね。ただ、アメリカも韓国も当たり前ですけども、自分の国が第一ですから、彼らにとってのインテラレストというか、その関心事項、優先順位が違うんですね。アメリカにとっての関心事項は、いわゆる核兵器だとか、生物化学兵器がどこかに流れ出して大変なことになるというのは避けたいと。これが彼らの最優先事項ですから、北朝鮮で変なことが起きたら、核兵器とかそういったものを除去する専門の部隊がいるんですけども、それをとにかく送り込んで、とにかく場所を確保すると。で、塩漬けにして管理すると。これを作戦の最優先順位に置いてやっているんですね。

韓国は、じゃ、何を考えているかということ、韓国政府が一番心配しているのは、まず一つは開城工業団地というところに韓国企業が123社入っているんですけども、この人たちがいわゆる人質になるのが一番心配しているんですね。

開城工業団地の話が出たので、ちょっと申し上げると、開城工業団地には5万1,000人ぐらいの北朝鮮の人が働いているんですけども、非常に評判がよくて、こんなに南北関係が悪いのに、ここだけはずっと操業を続けているんですね。それは北朝鮮の人にとってメリットがあるからなんですけれども、どういうところにあらわれるかということ、ここで働いている人の一番多い年齢層が30代の女性なんですけれども、2カ月働くと、お肌がすごくすべすべして、化粧のりがよくなると言われていたんですけども、物すごく栄養状態がよくなるんだそうです、ここで働くと。

あと、私も記事に書きましたけれども、この人たちは1月の給料が110ドルと一応取り決めで決まっているので、入居している企業は自分のところに優秀な労働力が欲しいもんですから、ほかの企業と差別化しようとして、おやつだとか、そういったものでも差別化を図るんですね。そうすると何をやったかということ、韓国の人はチョコパイが好きなので、チョコパイを一生懸命おやつで渡すようになって、最初は1日1個とか、1日2個で渡していたんですけども、そのうち気がついたのは、幾らあげてもあげても、ごみ箱に包み紙がないと。一体どこにいったらいいんだろうと思って、いろいろそっと聞いてみると、最初は2個もらって1個食べて、すごくおいしいから、当然ですけども、子供に食べさせたいとか、旦那さんに食べさせたいと思って持って帰ったらいいんですけども、そのうちみんな、これすごいおいしいと、これ市場で売ったらいいんじゃないかと話になって、今度は市場で売り始めて、そうすると、あっ、商売になると。そうすると、チョコパイを回収するアルバイトの人があらわれて、チョコパイを売ってませんか、ありませんかと言って、それを売ると。開城で売っても、余りありがたみがないので、遠く離れたところまで行って売るとか、そういう商売も成り立っているんだそうです。

だから、そうすると何が起きるかということ、それも一種の商売ですから、資本主義、北朝鮮で

言う、黄色い風が入っているわけですね。軍人たちはすごく怒っていて、開城というのは非常に要衝ですから、平壤やソウルに近いですし、そんなことでいいのかと、開城工業団地閉鎖しろとかといって軍人は怒っているんですけども、私が聞いた話だと、張成沢が、わかったと。じゃ、そのかわり軍はその分の外貨をどこかで調達してこいと言ったら、軍は黙っちゃったんですけども、そのぐらい北朝鮮にとっても、痛しかゆしの部分なんですね。だから、話をもとに戻すと、そんな状態でも韓国の人たちはそこにたくさん働いているので、何か起きたときに、その人たちが人質にならないようにどうしたらということをもまず考えていると。

それから、多分こうなるだろうと言われているのは、北朝鮮が混乱状態になったときに、韓国は多分、しゃにむに平壤に向かうだろうと言われているんですね。それはなぜかということ、ここで統一しておかないと、もうずっと統一できないだろうと彼らは思っているから、国連から何か批判されようが何だろうが、とにかく平壤までは走って行って、とにかくそこに韓国の太極旗を立てて、自分たちの国だということを宣言しちゃうということをもどうも考えているみたいですね。

中国は中国で何を考えているかということ、とにかく統一してほしいと。それは何でかということ、別にアメリカが来るのが怖いじゃなくて、いわゆる統一韓国、統一朝鮮になって、だんだん民族意識が強くなって、それが中朝国境地帯の中国の朝鮮族の人たちを刺激するのが一番怖いと。そこに、だから昔の渤海とか、統治の時代の大きな朝鮮を求めるような、そういった声が出るのがすごく嫌で、韓国からそういう論文が出たりすると、中国は物すごく反発するんですけども、そういった思惑があったりして、とにかく北朝鮮を今のままにしておくのが一番いいし、だめでも、衛星国家として残しておきたいという気持ちもあると。

じゃ、日本はどうかということ、日本は、私は思うんですけども、確かに当面のことを考えると、分断していたほうが日本にとっては朝鮮半島の力がふえないからいいんじゃないということもあるんですけども、私が思うんですけども、究極的にはやっぱり統一したほうがいいと思うんですね。それは北東アジアというのは、世界でもまれに見る不安定な地域で、冷戦がそのまま残っているんですね。

最近、私、軍史の問題なんかをよく取材するんですけども、世界の軍隊のトレンドというのはどんどん変わっていて、21世紀の軍隊というのはそのほとんどが戦闘をする機能じゃないんですね。要するに、戦闘する軍隊という機能は全体の3割とか4割ぐらいしかなくて、残りは災害救難だとか、平和構築だとか、医療活動だとか、そういったことをやっているんです。そういうのを複合的に、例えばテロ対策だとか、いろんなことをやりながらやるのが21世紀の軍隊だと言われているんですけども、北東アジアの軍隊は、その例外とも言える存在でいて、純粋に軍事的な強化とか、そういったことを求める傾向があるんですけども、そういったことより何よりも、やっぱり北朝鮮という不安定な要素があって、それがどうしても軍縮とか、そういったものに向かえない大きな理由になっているので、やっぱり今、統一すると大変なことがたくさんあると思います。

例えば、北朝鮮の人たちは税金を払っていないわけですから、そういう人たちが統一して、じゃ、僕たちも韓国の人たちと同じように年金が欲しいなんて言ったら、当然、韓国の税金はどんどん上がるでしょうし、そうすると韓国の企業といろいろ取引のある日本の企業にも影響があるでしょうし、いろいろ大変なことがあると思うんですけども、でも、その中でもやっぱり統一することが私たちの世代や子々孫々のことを考えたときに、やっぱり地域が発展していく一つの大きな契機になるんじゃないかと思います。

ただ、今申し上げたように、中国はとにかく統一してほしいと思っているし、いろんな思惑が交差していますから、しかもボタンを押し間違えると、軍事的な暴発を招きかねない状況になりますから、例えばこの記事に書いたミサイル搭載のトラックなんですけれども、トラックぐらいいいじゃないのと普通の人はやっぱり思うかもしれないんですけども、これが結構くせもので、このぐらい大きなミサイルになると、通常は北朝鮮の場合は発射台、皆さんもテレビでごらんになったと思いますけれども、発射台に据えつけて、そこで撃つたりするんですよね、普通は。その場合は固定されているので、ここに据えつけられてから発射するまでの時間がある程度あるんですね。そうすると、アメリカなんか事前から攻撃目標を決めておいて、そこに攻撃することができるんですけども、こういった移動型のものが供給され始めると、要するにどこから撃ってくるかわからなくなっちゃうわけですね。当然、今、これが4台とか8台とかあると言われていますけれども、北朝鮮は当然、本物が4台あれば十分なわけで、残り多分30台とか40台、ダミーをたくさんつくるわけですよ。木でつくったり、風船でつくったりして、そういうのをあちこちに置いておくんですね。これ結構、漫画みたいな話で、大したことはないと思うんですけども、実は大したことがあって、衛星から区別できないとわからないわけですよ。そうすると、30カ所全部このマークしなくちゃいけなくなって、そんなことでできませんから、そうすると要するに事前に全部攻撃するということが不可能になって、そういうのを残存能力というんですけども、第1撃の残っているミサイルが出ることによって、各段にその脅威が上がるんですね。だから、朝日新聞も、これだけ深刻な問題だというふうに取り上げたんですけども、そういったことが実際に徐々にではありますけれども、広がっているということがあって、決して楽観できないというか、特に北朝鮮が非常に不安定な状態にあるので、一番いいのは、最初の話に戻りますけれども、北朝鮮の人たちも、決して今の北朝鮮の自分たちの体制が非常に誇るべきもので、いい体制だとは思っていないわけですよ。非常に理不尽だし、でも、自分たちが生きていくためにはしょうがないから、それはおつき合いをしているだけであって、そういったよりよい暮らしとか、よりよい国づくりをしたいという気持ちは北朝鮮の人たちも持っていますから、ぜひそういった面も見えていただいて、これからの北朝鮮がどうなっていくのか。

最初に申し上げたように、例えば金正恩が子供を大事にするとか、少しでも変えたいという気持ちはあるようですから、そういったものを、金正恩なんて正統性もないんだから、こんなやつを言うことを信じる必要ないとかというんじゃなくて、金正恩はこういうことをやっている、

将来、多分それに反発する勢力があらわれますから、金正恩が突然殺されちゃうこともあると思うんですね。そういうことを考えたときに、やっぱり金正恩が非常にだめな部分もたくさんあるし、決して国際的に評価される人であると言い切れないと思うんですけれども、でも、全然だめだと、こんなやつと話す必要ないということでは問題は解決しないと思うんですね。

だから、一番いいのは、やっぱり日本のようなこうやって開かれた国、例えば私がこういう記事を書いて、私は今こうやって皆さんの前でべらべらしゃべっていますけれども、韓国でこういう記事を書いたら大変なことになりますから、私も韓国でこういう記事を書いて、何度も尾行されたことがありますけれども、電話なんか全部盗聴されますし、それは何でかということ、軍事的に緊張しているからですよね。要するに休戦状態にあるので、こういう軍事情報を持っている記者というのは、ある意味スパイなわけですよ。だから私には直接電話かかってこなくても、私のネタ元に圧力をかけて、私に電話しなくさせるとか、そういうことも何回もありました。そういうことが朝鮮半島にはまだまだ残っているんですね。韓国なんかに旅行に行っても、なかなかそういうところはわからないんですけれども、だから、そういったものが少しでも日本のこういった、日本って本当、そういう意味ではいい国だと思うんですけれども、そういった国になるように、皆さん方も、北朝鮮を応援しろというのも変ですけれども、ぜひそういった視点も持って、朝日新聞とか、いろんなものを読んでいただけるといいんじゃないかなと思います。

じゃ、一旦、とりあえずこれで終わらせていただきたいと思います。ご清聴ありがとうございました。(拍手)

○司会 ご清聴ありがとうございました。

それから、牧野さん、本当にありがとうございました。

テレビとか週刊誌で見る我々の北朝鮮のイメージというのは、もう化け物みたいなものなんですけど、今のお話を聞いて、改めて等身大の北朝鮮というのかな、あそこにも結局2,500万人の人間が住んでいるんだという感じを改めて私などは持ちました。お話を伺えば伺うほど興味、関心、疑問もたくさんふえてきたと思います。

皆さん、ご質問をどんどんしてください。

はい。

○ どうもありがとうございました。

1点お伺いしたいんですけれども、我々にとって最大の関心事は言うまでもなく、拉致問題の解決ということなんですけれども、ただいまの先生のお話で、北朝鮮は経済が逼迫しているということで、日本の政権が安定した政権になれば、国交回復を望んでいるということになれば、拉致問題も当然テーブルに乗って、話が進展する可能性もあろうかと思うんですけれども、ただ1点、ちょっと懸念していますのは、40年前の例の中国とアメリカが国交回復したときに、ニクソン・ショックと言われるように、日本の頭越しにアメリカがある日突然に中国と国交回復したというようなことがあったわけなんですけれども、今回もアメリカもいよいよ北朝鮮の核兵器の脅威が

身近なものになってくれば、その辺も考えて、ある日突然北朝鮮と国交回復するというようなことに、40年前の中国とのようなことがまた起こってくる可能性がないのかどうか。起こってきた場合、経済的に逼迫しているということですが、アメリカと国交回復すれば、十分経済的な支援も得られるであろうということになれば、日本との話はもう必要なくなってきて、拉致問題の解決も遠のいてしまうのでないだろうか。だから、アメリカの動きというのがどうなのか。水面下でやはり、そういう40年前の中国との国交回復、日本をないがしろにしてということはちょっと言い過ぎかも知りませんが、水面下でそういう動きをやろうとしているのかどうか、そのあたりはどうなのでしょう、教えていただきたいと思います。

○**牧野** ありがとうございます。大変よい質問というか、時宜に適したご質問だと思うんですけども、アメリカに関して言えば、先ほどから申し上げているように、やっぱりアメリカは自分勝手な国なんです。余りちょっと報道されていないんですけども、実は4月7日にアメリカの軍用機が平壤に行ってるんですね。これは何でわかったかという、公海上空、あのあたりは日本や韓国の防空識別圏というのがあって、ADIZという、要するにその空域の管制権を持っているんですけども、そこで韓国軍の軍用機がスクランブルをかける事件があったんですね。それはふだんは民間航空というのは、フライトプランを運輸省なんかに提出して、いつからいつまでにこういうふうには飛びますよとかいうことを全部提出していますから、民間機の場合はチャーター便であろうと、定期便であろうと、フライトプランが出ているので、それをコンピューターに入れておいて、レーダー上にそういった基点があらわれても、それで識別できるという状況なんですけれども、当時、識別できない飛行機があったんですね。そういうのを unknown と言うんですけども、それがあらわれたので、どうしたんだろうと驚いて飛んでみたら、アメリカの飛行機だったと。

アメリカの飛行機はそのとき、平壤に実は入っているんですけども、これはまだ朝日新聞も書いていないんですけども、だからこれもツイッターで言わないでください。私もこれから取材しますから。僕が政府関係者の人に聞いたら、政府も実はいろいろ照会をかけているんですけども、アメリカの高官が言っているのは、要するに今自分は答える立場にないと。ただし、今自分がしゃべっていることがアメリカの政策であると。もし変更することがあれば、必ず伝えると言っているんです。事実上、それを認めているわけですけども、この内容は一切言わないんです、アメリカって。

ことほどさように、アメリカは当然ですけども、アメリカ人のための国ですから、アメリカ人のことを考えていますので、自分に不利なことは一切言わないですし、だから、私が書いた記事も、たまたま日本とアメリカと韓国の国益が一致したので、一緒になって黙っていましたけれども、アメリカはこれが自分の国益にしかならないと思ったら、日本や韓国には言わないという状況が当然あると思います。だから、アメリカが日本に黙って、北朝鮮と交渉する可能性は大いにあると思います。

ただし、2番目にご指摘になったように、じゃ、それで例えばアメリカと北朝鮮が国交を回復したとして、アメリカが日本を無視するかということ、それはないと思うんですね。それはなぜかということ、まず一つ、アメリカはやっぱりお金がありませんから、アメリカは今、非常に日米の安全保障の関係でも、お金がなくてひーひー言っているわけですよ。お金がないから、日本に例えば、ホストネーションサポートっていうんですけれども、日本の基地で米軍が駐留している分には、日本がいろいろお金出してくださいよということをしてきたんですけれども、それを最近では北マリアナだとかグアムだとか、そういったところにお金出してくださいよということをどんどん言い始めているわけですよ。そんなお金のない国が北朝鮮のインフラを安定させるようなお金を出せるわけがないと私は思うんです。アメリカも実際出す気がないと言っていますし、だから、そうなったときに出せる国というのは、韓国と日本しかないんですよ。だから、それはアメリカの国益になるので、アメリカは絶対金を出させる、いわゆる北朝鮮を安定させるために、最後は日本に出てきてもらって、金払えということをやりたいと思います。

最後に、じゃ、拉致問題がどうなるのかということなんですけれども、拉致の問題は極端なことを言うと、永遠に解決することはないと思うんですね。それは何でかということ、主観の問題が一部入っていますから。例えば今、100人とも200人とも言われていますけれども、被害者の方にとってみれば、一人一人が大事なご家族であり、肉親ですから、それがたとえ1%であっても北朝鮮に拉致されたかもしれないという可能性があれば、やっぱりそれを追及するのは当然だと思うんですね。それは人の情ですから。

じゃ、それを考えたときに、たとえ1%でも北朝鮮に拉致されているんだから、この人の問題が解決しない限り、国交正常化しませんということが言えるかどうかということですね。そうすることは、どう見ても、これは別の理由で行方不明になったんじゃないかと思えるところでも、でも、それは可能性があるんだから、もうそれは国交正常化しないということがいいのか、でも、例えばそういうことが、じゃ、世界のこれまでの外交のスタンダードに当てはめたときにどう考えるかということ、例えばアメリカと中国の関係をみればわかりますけれども、日本もアメリカも別に中国の全てがいいとは思ってないわけですよ。中国ってやっぱりわからないところがたくさんありますし、北朝鮮よりもはるかに大きな賄賂だとか汚職もあるし、得体の知れないところがあるんですけれども、でも、やっぱりつき合うわけですよ。何でつき合うかということ、わからないやつだけれども、相手のことを知らないと、誤解とか、誤ったことで急に緊張が高まったり、解決できるものができなくなったりするからですね。だから、今、僕が聞いている日本政府の人たちの本音をまとめて私がここで言うと、必ず拉致問題を解決したとは多分彼らは言わないでしょう、最後まで。だけど、国交正常化したほうがいいと思っているんです、やっぱり。国交正常化して初めて見えてくるものがたくさんあるし、国交正常化すれば、平壤に日本大使館を置けば、そこで日本人がいるわけですから、今より格段に情報が入ってくるわけですよ。

一時、安倍政権のころでしたけれども、北朝鮮の労働新聞を輸入禁止にしろという動きがあっ

て、私、それを聞いて本当にばかだなと思ったんですけども、いわゆる戦前の野球のストライクを、「よし一本」と言ったのと同じと一緒ですよ。要するに、相手のことがわからないのに、相手のことを批判するとか、相手の欠点を追及なんかできるわけないわけで、別におもねる必要は全くないと思うんですよ。おもねる必要は全くないけれども、拉致問題を追及して、なおかつ国交は正常化すると。ただし、日本は民主国家ですから、有権者の人たちが選んだ政治家が交渉するわけですから、有権者の人たちにもある程度納得してもらおうということが当然必要になるわけですね。だから、拉致問題が全然進展しないのに国交正常化できないというのは、そういう意味だと思うんです。だから、一般の人たちが大体の常識で考えて、やっぱりこのぐらいだったら国交正常化して、まずそれで並行して拉致問題を追及することがいいんじゃないのかなと思えるところの解決策をどこに落とすかということだと思うんですね。これは極めて主観的な問題になるので、政治家の胆力が問われることになっていて、今、民主党政権のこれにかかわっている人たちは、私の目から見ると、全然だめですね。もう自分のことしか考えていないから。自分がどうやって目立つかということしか考えていないので。北朝鮮もそれはよくわかっているし、多分、利用されているだけで終わるだろうと思いますが、多分、これから私が今申し上げたような展開で話は進んでいくんじゃないかと思います。

○ どうもありがとうございました。

○**司会** いかがでございますか、はい。

○ どうもありがとうございました。

ちょっと私、聞きたいのは、先ほどの拉致の話なんですけれども、小泉政権のときに小泉さんが北朝鮮に直接乗り込んで、北朝鮮は拉致を認めて、5人、返してくれたですね。なぜ、日本に対して拉致した人を返したかというのが、今もって、私、わからないんです。今はまだ拉致された人が、横田さんとかがいるんですけども、返してくれないですわね。いてる、いてないも言わない、そういうカードを持ちながら、なぜ5人もまとめて返したか、ちょっとその辺のところを知りたいんですが。

○**牧野** ありがとうございます。当時は北朝鮮の中でいろんな議論があったそうです。当時、2000年初めというのは南北首脳会談が終わって、金正日がやっぱり外交環境をよくすることによって経済環境をよくするんだという考えにかなり傾いていた時期で、当時、田中均さんという外務省の審議官が北朝鮮と交渉して、拉致問題が解決すれば、国交正常化にかなり前進するという事前合意があったんですね。

まず最初に、北朝鮮の決断は、拉致問題を認めましょうと。それまでは拉致問題はないということになっていたんですけども、認めて、謝罪すると。これがかなり問題を解決することになると。当時は、何人返したらいいとかか、そういうところまで問題が全然いってなくて、拉致問題を認めるか、認めないかというところに論点があったので、まずそこはかなり集中していたということがあるんですね。



あと、金正日が、何人、拉致被害者がいて、何人これから返すかと。そこまで精密な議論は多分してなかったと思うんですね。かなり情報機関とかが勝手にやったりとか、いろんな機関があるので、例えば拉致を担当している機関にもいろんな機関がありますから、軍の偵察総局みたいなところもあれば、党の対外調査部とか、いろんなものがありますから、しかも1970年とか80年代に起きたことが、今、その当事者が生きていのかどうかという問題もありますし、その中で下の人間に、じゃ、まとめてこいと言われて出てきたのが、さっきおっしゃった返した人たちの人数とか、行方不明になった人たちの結果だったと思うんですね。

ただ、今、それをその後いろいろ日本に突き詰められたので、じゃ、すみませんでしたと言えるかということ、それはやっぱり要するに金正日が約束したことだから、金正日を否定することになるわけですね。金正日を否定することというのは、彼らにとってはあり得ないことなので、金正日がやったことは全て正しくて、要するに金正日がやったことが正しくないということになると、金正恩が正しくないということになっちゃうんですね。そうすると金正恩はリーダーとしてふさわしくないということになってしまうので、それは禁じ手なわけですね。だから、そこをどう折り合いをつけるかということでもいろいろ悩んでいるんだと思うんですけども、今、北朝鮮が認められないというのは、そういう金正日の決定に文句をつけられないという状況があるんだということを理解していただければいいんじゃないかなと思います。

○司会 ほかにご質問、いかがでしょうか。

ございませんか。

先ほどのご質問に関連して、私も、2000年にクリントン政権がアメリカで、結果的には最後のと言われたんですが、民主党政権ですね。北朝鮮との国交正常化にもうほとんど寸前までいったかな。当時、オルブライトが平壤に参りましたね。今度、オバマ政権が、ヒラリー・クリントン国務長官、何か劇的なドラマを考えている節は全くありませんか。

○牧野 ありがとうございます。やっぱりアメリカは、結論から言うと、オバマ政権の間で多分、そういう大きな展開というのはないと思うんですけども、今、オバマ政権で考えているのは、とにかくまずミャンマーの問題をうまく解決して、それが北朝鮮にうまく波及するといいんじゃないかというぐらいの程度だと思うんですね。

ちょっと話がそれますが、ミャンマーというのは本当に劇的に今、変わっているわけです。私もこの前、韓国に出張に行ったときに、韓国のミャンマー担当の課長と私、友達だったので、あしたからミャンマーに行くという日に、その友達に会っていろいろ話をしたんですけども、彼が言っていたのは、いや、ミャンマー人は去年と全く変わったと。去年までは本当に木で鼻をくくったようなことしか言えなくて、それは言えないとか、早く帰れみたいなことを言っていたのに、何か聞きたいことはないのかとか、御飯食べに行かないかとか、すごい変わったんだよねと。やっぱり国が変わるといいよねというようなことを言っていたんですね。そういった要するに北朝鮮もミャンマーも同じ軍事政権だし、中国との影響とか力関係があったり、いろんな

ところで似ているということを考えているので、ミャンマーが北朝鮮に大きな影響を与えてくれるといいなということを考えているんだと思うんです。

じゃ、北朝鮮が本当にミャンマーみたいになれるのかというと、幾つか足りない部分があって、まずやっぱりアウンサンスーチーさんみたいな人がいないんですね、北朝鮮は。だから、ここまで言っていていいという基準になってくれる人がいないので、どういうふうに行動していいのかというのが、北朝鮮の人自身によくわかっていないというのがあるし、ミャンマーというのはご存じのように、ビルマの時代とか、結構非同盟政策とかをやって、一生懸命昔、アウンサン廟事件というのがあって、北朝鮮が全斗煥（チョン・ドファン）韓国大統領を暗殺しようとして、ビルマのアウンサン廟に地雷みたいなもの、爆弾を仕掛けて、韓国の閣僚を殺したことがあるんですけども、そのときはビルマはかなり怒って、一生懸命調査して、最後、北朝鮮の工作員が持っていた銃が——北朝鮮の工作員は韓国人だと言って言い逃れをしようとしたんですけども、北朝鮮の軍人が持っていた銃のシリアルナンバーが、北朝鮮に輸出したものと一致したことを突きとめて、これは北朝鮮の犯行であると言って断行したことがあるんですけども、そういう割と独自の外交をしたという素地もあったりして、それが非常にいい方向に影響したという人いるんですけども、北朝鮮にはなかなかまだそういう余地はないですね。

北朝鮮の人というのは、僕もたまにですけども、北朝鮮の人に会っておもしろいなと思うのは、彼らの頭の中というのは1953年でとまっているんですね。いわゆる朝鮮戦争が終わったところでとまっていて、国際情勢の認識がそこでとまっちゃっているんです。だから、もちろんテレビとかは見ているんですけども、でも、韓国が豊かなんだというのはわかるんだけど、でも、きっと政治的にアメリカに抑圧されて、苦しんでいるんじゃないかと。実際、デモなんかもあるので、そういうのを見たら、やっぱりそうかと思ったり、資本主義ってすごく怖いとか、そういう気持ちもやっぱりあるんですね。

ビルマみたいに、今はミャンマーですけども、さすがにミャンマーとはいえ、外国の人も結構受け入れたりしていますし、割と海外の風に当たることが結構あるんですけども、ASEANに入ったというのも大きかったと思うんですが、そういったものが北朝鮮には不足しているので、多分アメリカも、ミャンマーでできたことが北朝鮮でできたらいいなということまではなかなか行きつかないのではないのかというのが私の感想ですね。

○司会 ほかに。どんな質問でもいかがでしょうか。

はい。

○ お先に失礼します。いろいろ貴重なお話をありがとうございます。今、お話を伺っていて、南のほうは、大韓民国のほうはどんな感じなんですか。今朝も、ちょっと家事をしながら、テレビをつけて、何か入ってきたんですけども、南の人が、韓国の人が北に何か支援に行って、国境を越えて行って、帰ってきたところで即捕まったと出ていましたね。あれは例えば、すごい情報が、私、そこら辺、想像なんですけれども、行かれた方の動きというのが、やっぱり南のほ

うではかなりあのニュースの言葉だけ見ていたら、本当に国境を越えて、南に帰ってきた途端に即捕まったみたいなの、そういう言い方で報道されていたので、だから、すごいキャッチされているのかなとか思ったんですけども、どうなんですか、そこら辺。すみません。

○**牧野** ありがとうございます。それは事実で、板門店を通過して、すぐ捕まえたんですけども、韓国のことをちょっとお話すると、韓国には与党と野党があって、日本で言うと、自民党みたいなのと、民主党みたいなのがあるのかなという感じがするんですけども、まず一つに、余り韓国の中で政治理念の対立というのはないですね。例えば、日本は55年体制というのがかなり長くあって、社会主義がいいよねという時代がかなりありましたから、割とそういうイデオロギーによる理念の対立ということ割と簡単に想像しちゃうんですけども、韓国の中でイデオロギーによる対立というのはほとんどないんです。さっき捕まった人というのは共産主義がいいと思っている部分がある人なんですけれども、韓国の中で共産主義がいいと思っている人は1%とか2%とか、そんなぐらいだと思いますけれども、そんなにいないんです。韓国は基本的に既得権か、既得権じゃないかというくりですから、要するに既得権に入れなかった人はNGOになったり、市民運動家になるという、そういう構図なので、俺は社会主義がいいとか、俺は資本主義とか、俺は社会民主主義とか、そういう理念じゃないんですね。

一方で、北朝鮮に対して、じゃ、どういう感情を彼らが持っているかという、当然ですけども、朝鮮戦争のときに一家離散したりして、北朝鮮に家族が残っているという人もたくさんいます。だから、その人たちにとって北朝鮮というのは、当然、自分たちの同族が住んでいる土地だし、もちろん日本人にはない非常に深い愛情とか、憎しみであったり、いろんな強い感情の対象の場所だというふうに考えていただければいいんですけども、私がソウルにいるときに聞いた話でおもしろいなと思ったのは、韓国政府というのは定期的に日本の内閣の世論調査みたいなことをやっているんですね。それは韓国の人たちに韓国政府が定期的な世論調査をやっている、その中に韓国と北朝鮮は統一したほうがいいと思いますかどうですか、という質問があるんですね。過去、これが一番最低だった時期があるんですけども、それが2000年の夏だったんですね。何でそのときに一番低かったかという、これはいつの時期の世論調査だったかという、南北首脳会談が実現した直後の世論調査だったんですね。それはどういうことかという、当時の雰囲気は金大中さんと金正日さんが会談して、いよいよ統一だとお互いに抱き合って、握手している写真が流れてというときに、韓国の人はどういう反応を示したかという、統一してもらったら困るという反応が出たんですね。もちろん統一したほうがいいという人のほうの回答のほうが多いんですけども、相対的に下がった時期があるんです。それはどうしてかという、一番拒否反応を示した人で多かったのが、家庭の主婦の人が嫌がったそうです。何でかという、泥棒がふえるからとか、治安が悪くなるとか、税金が上がるかもしれないと。非常に正直な答えだと思うんですけども、そのぐらい韓国の人にとって北朝鮮というのはかなり負担になっていることは事実なんですね。

韓国は今実は、何か右肩上がり、経済もすごくいいように言われて、韓国は日本に勝ったんじゃないかとか言う人がいるけれども、実はそんなことはなくて、日本が経済成長した背景には日米安保条約だとか、もちろんそれは日本人が勤勉だったということが大前提にあるんですけども、韓国にも同じことが言えて、何でこんなに韓国が発展したかという、実は朴正熙政権が金日成との体制競争に勝つために相当無茶をやったわけですね。いわゆる開発独裁と言われていることをやって、いわゆる体制に負けたら終わりなんだから、ある程度民主主義とかを抑えてもしょうがないでしょう。だから、例えば大企業に非常に甘い税金とか政策をとって、そのお金で大企業は海外で勝負してきなさいと。だから、新しく生まれた現代とか、サムスンも海外で成功したわけですね。

例えばどういうことがあるかという、現代というのは韓国の代表的な自動車メーカーですけども、ヒョンデの自動車は海外で買ったほうが韓国で買うより安く買えるんですね。韓国で買うと高いんですよ。なぜかという、要するに国際的な競争力をつけさせるために、国がそういうふうによ優遇しているんです。そういうことができるような税制をとっているんですね。だから、韓国の企業は勝ってきたし、成長したんだけど、その分、いわゆる日本という1億総中流みたいな言葉が生まれていないんです。

ソウル、皆さん、ご旅行された方も多と思いますけれども、例えばスターバックスでコーヒーを飲むと、大体安いものでも3,000ウォンとか4,000ウォンぐらいしますけれども、5,000ウォンぐらいあれば、キムチチゲで定食を食べられるわけですね。だから、よく国の発展度を見るのに、そういうふうに見ればいいという人がいましたけれども、いわゆるおしゃれなカフェ、コーヒー1杯の値段と、庶民の食事の値段が逆転しているような国って、まだやっぱり発展にちょっと無理があるんです。北京なんかもそうですけれども、北京なんかは本当に餃子、おなかいっぱい食べて、それがスターバックスのコーヒーより安かったりすることがよくありますけれども、そういうことはよく起きるんですね。だから韓国の人の中には、国は発展してももちろんいいんだけど、自分はまだその恩恵を受けていないと思っている人がたくさんいるんです。

この前、ソウルの市長選挙があったときに争点になったのが、小学校と中学校の給食を無料にしようという政策論争があって、結局、当時の市長が、そんな給食を無料なんかして、そんなことに税金使うより、もっと福祉とかに使ったほうがいいと言って、私はそちらのほうが正しいと思ったんですけども、結局その市長は破れて、給食は無料にしたほうがいいという人が勝ったんですね。

これも冷静に考えてみると、給食はできれば有料のほうがいいんです。何でかという、当たり前ですけども、親御さんは子供にやっぱりいいもの食べさせたいと思うから、そのほうが給食の質が上がるんですね。給食無料ということは、要するに税金で払うわけですから、そうすると全然関係ない、子供もいないような人も給食費を負担しなきゃいけなくなって、そうするとみんなが負担しない、負担が一番弱いところにおこうということになって、給食の質が落ち

るんだそうです。だから、そういう問題があるんだけれども、頭でわかっているけれども、もっと福祉をやってくれというのは、韓国の人はそのような満たされない気持ちがあるんですね。

北朝鮮の話にもとに戻すと、今、韓国自身、すごくそうやって苦しんでいるし、今、彼らは消費税10%なんですけれども、これも導入したときは朴正熙政権のときで、当時、導入したときの財務官僚と話をしたことがあるんですけれども、1970年代に10%って大変だったでしょと言ったら、全然大変じゃなかったと。全然国会で議論しなかったからと言っていましたが、ある日突然10%上がって、内税だったので誰も知らなかったという落ちがついているんですけれども、でも、そのおかげで韓国は健全財政でここまで来たんですけれども、もうもたないですよ。韓国も15%ぐらいにしなきゃいけないという話になっていて、でも、そういった議論に耐えられるだろうかと言っていました。

日本みたいに、日本は大変だったけれども、でも、わーわーわーわー言ってきたから、結構議論も強くなってきていて、それでも自分の子供のことを考えたらしょうがないかなとかという人も出たりして、いろんな意見が出るようになったんですけれども、韓国はそこまで議論が練れてないんですね。そういうときに北朝鮮が降ってきたらどうなっちゃうんだろうという気持ちも彼らは持っていて、さっきおっしゃった逮捕された人は、さっき僕が申し上げたように、二、三%の人で、そういう人は必ずいるんです、どんな世界にも。韓国も民主国家ですから、どんなことを言ってもいいということにはなっているので、それで彼はそうやって利用されたわけですよ、北朝鮮に。北朝鮮のプロパガンダに利用されて、韓国の中にも北朝鮮のことをいいと言う人がいるんだということで、彼は彼なりに、でも、そうやることによって自分の存在価値を見つけたとか、彼は刑務所に行けばこれで箔がつくわけですから、彼は彼で納得しているわけですよ。という世界なんだと思います。

○ 今までの話を聞きまして、非常に興味がありますし、おもしろいなと思ったんですけれども、北朝鮮の問題について、中国というのが非常に鍵を握っているんじゃないかなというような気がします。中国の態度って、一体どうなんでしょうかと。先ほどおっしゃったように、自分の衛星国でそのままいてくれれば非常に中国にとっては都合がいいのかもわかりません。そのために、やっぱり生かさなないように、殺さないような状態で、今のような状態で続くというのが中国にとっていいのかもわかりませんが、それにしましても、北朝鮮は恐らく中国の援助がなければやっていけなかったでしょうし、そうかと思うと、中国がどうして北朝鮮に対して強く出られないのか、あるいは強く出ないようにしているのか。その辺のところを実際にどうなのか、ちょっと教えていただきたいなと思いました。

○**牧野** ありがとうございます。北朝鮮問題でよく日本や韓国やアメリカが中国政府にいつも苦情を言うんですけれども、中国がちゃんとしっかりしてくれないから、こういうことになるんですよとかよく言うらしいんですけれども、そうすると、中国政府はいつもまなじりを決して怒って、こんなに努力しているのにと、いい加減にしてくださいと言って彼らは怒るんだそうです。

それは中国が持っているいろんな体制の問題だとか、国としてきちっとしていない部分が影響しているんだと思うんですね。例えば私がここで皆さんにご紹介したニュースで申し上げると、発端は中国の会社が運航している船から北朝鮮に軍用車両を輸出したという書類が見つかったということなんですけれども、僕が聞いた話だと、見つけた日本政府のほうが驚いたわけですよ。要するに、物すごく重要な書類なわけですよ。これが見つかって、それがわかっちゃったら、国際社会から物すごい非難を浴びることはわかるわけだし、当然、極秘資料に当たるわけですよ。そういったものを船、しかも輸出してから時間がたっていて、別になくてもいいわけですから、そういうものが。そんなものをよく船に置いといたよねという話になって、日本政府もすごい悩んだらしいんですけれども、最初、これは罨かもしれないとか、いろいろ考えたんですけれども、それは私も後からいろんな話を聞いて思うのは、中国の人自身が輸出することの重要性をよくわかっていなかったんじゃないかと思うんですね。要するに、この船に積んだ軍用車両というのは、中国の人民解放軍の系列の会社がつくった車両ですから、人民解放軍の許可は最低限要るわけですよ、海外に売るわけですから。だけど、中国の中央軍事委員会というのはメンバーが12人ぐらいいるんですけれども、そのうち文民というのは胡錦濤と習近平と2人しかいないんですね。じゃ、その習近平や胡錦濤に連絡したんだらうかというふうに考えると、してなかったんじゃないかと思うんですね。それが後で核兵器、核実験をするかもしれないといったときの中国政府の慌てぶりと、非常に簡単に軍用車両を売ってしまったときの中国の姿が重ならないので、そういう結論にしかならないんですね。

それは例えば、一昨年ぐらいに当時、アメリカの国防長官だったゲーツが北京に行ったときも、こんなことがありました。当時、中国でステルス戦闘機を開発していて、ゲーツ国防長官が中国を訪問しているときに、テスト飛行をしたんですね。これがアメリカに対する非常に軍事的な威嚇行動だと言われて大きな問題になったんですけれども、ゲーツもすごく驚いて、これもオフレコだから、これもツイッターしないでください。申し上げますと、ゲーツ自身が後で記者団にしゃべったんですけれども、完全オフレコで。ゲーツが聞いたというんです、胡錦濤の晩さん会で。飛行機を飛ばしちゃったみたいですが、どうしてこういうことをするんですかと聞いたら、胡錦濤は最初すごいびっくりした顔をして、何ですか、それって聞いたと。いやいや、こういう件ですよと言ったら、胡錦濤が横向いて、知ってるというふうに聞いたら、横の人が、えー、知らないです。知ってると聞いて、それを2回ぐらい繰り返したら、実はという話になって、ようやくわかったと。明らかにゲーツが見ていた胡錦濤の様子はうろたえていたと。初めて知った顔をしていたと。

そのぐらい国が余りにも大きいので、コントロールし切れない部分があるんですね。下の者が何をやっているのか、どういうふうに。例えば日本は本当すごいと思うんですけれども、日本でこんなものを輸出しようとしたら、経済産業省の人がすぐ飛んできて、警察と連携して、すぐとめちゃいますよ。そのぐらい日本というのは法治国家でしっかりしているんですけれども、やっ

ぱり中国というのはそういうところが非常に甘い部分があって、国の図体がでかいと。あと、それから税関も基本的に、税関というのは不正を見逃すための温床なんですよ。僕は、これは本当かどうかわからないので記事にしてないんですけども、地方の税関長は過去2人に1人は死刑になっていると言われてるんですね。要するに何でも通しちゃおうと。通すことで余禄をもらってしまうと。

それは別に中国人がけしからんと言っているつもりはなくて、ロシアなんかでもよくあるんです。僕もロシア、この前取材に行ったことがあるんですけども、ロシアの税関なんかは地方に行くと、マフィアが仕切っているんですね。マフィアが仕切っていて、そのマフィア系列の旅行会社に頼むと、ものが早く届くとか、そういうことがあるんです。それが割と国際社会の常識とは言わないですけども、中国にはまだまだそういうところが残っていて、人間ってどうしても物事を合理的に考えたがる場所があるので、中国がこういうことをすると、何か中国は裏で陰謀を張り巡らせていて、裏で悪いことやっているんだらうかと思うんですけども、実はそういうことでもなくて、中国自身が苦しんでいる部分も幾分かあるんだと思います。

中国はすごく北朝鮮のことに、腫物にさわるようにつき合っている部分があって、例えば中国のリーダーというのは、国務委員というのは9人いるんですけども、9人のメンバーは金正日在北京に行くと、必ずその9人全員に会うんですね。日本は基本的に首相が行けば、胡錦濤、温家宝、あと全人代の議長とか、四、五人は会えますけれども、9人全員に会うということはめったにないです。日本の外務大臣なんかが行くと、もう国務委員なんか出てこないですし、そのぐらいなのに、北朝鮮が行った場合に出てくるというのは、それだけ中国もやっぱり気を使っているんですね。気を使っているというのは、おもねっているということもあるかもしれないけれども、一方で何とか北朝鮮をコントロールしなきゃいけないという、彼らの焦りだとか、強い意志のあらわれでもあるんだと私は思います。

○**司会** 時間が押してまいりましたが、あとお一人だけご質問、もしありましたら最後ですから、いかがですか。

じゃ、私からもう一つだけ。張成沢という人間が、もし開明派だとするならば、彼にどの程度期待していいのか。つまり彼は北朝鮮の鄧小平になり得るのかどうか。簡単に5分ぐらいで結構でございます。

○**牧野** ありがとうございます。張成沢自身はさっき申し上げたように、非常に人脈も豊富で、張成沢が言った有名な冗談の一つに、俺を殺す気かと。それは要するに、張成沢が歩くと、周りに必ず人の輪ができて、何かみんなが張成沢さん、張成沢さんと言って、今度飲みに行きましょうよというようなことをよく言うんだそうです。それで、そのときに出た言葉がその言葉だったそうなんですけれども、そのぐらい張成沢というのは人が集まる存在だったんですね。

一方で、金正日が常に言っていた言葉が、張成沢を徹底的に監視しろと。北朝鮮に数ある幹部の役職の中に、党中央委員会書記というのがあるんですけども、平壤に党職員宿舎というのがあ

るんですね。要するに党本部ですよ。朝鮮労働党本部というのがあるんですけども、その本部を仕切る担当の書記というのがあるんですね。その責任者ということなんですけれども、これは通常、その組織指導部の第一副部長が務めることになっていて、彼が張成沢の代々のお目付役とされてきたんです。

何が起きたかという、この歴代の人たちは、みんな途中で死んでいるんですね。最近、李済剛という人だったんですけども、交通事故で死にました。昔の人も、病気で死んだとかいろいろ言われているんですけども、これは証拠がないので全くわからないんですけども、政治闘争で死んだという意見もかなり強いんです。要するに張成沢と闘争して、最後は破れて死んだと。そのぐらい張成沢というのはぎりぎりのところで勝負をしてきていて、一時期、張成沢は非常に調子が悪いときに日本の政治家と会ったときに、その政治家が言っていたのは、張成沢はすごくおびえていて、目もきよきよしているし、非常に落ち着かない様子だったと。

それを考えたときに思うんですけども、張成沢というのはそのぐらい死線を何度もくぐってきてやってきた人間ですけども、金正恩とか、金家にはやっぱり刃向かえないんですね、そういう意味で。もちろん権力を握ってはきたけれども、やっぱり金日成、金正日にはなれないわけで、私は金正恩が張成沢を利用して、最後は篡奪するかどうかというところに焦点があって、張成沢が金正恩を篡奪するとか、権力をとるということは絶対ないと私は思います。

○司会 きょうは本当にコンフィデンシャルな話ということで、ツイッターにもお書きにならないでくださいと、私どもからのお願いをしないといけないほどの中身のあるお話をたくさんいただきまして、主催者としても、本当にありがとうございました。遠路からはるばるありがとうございました。(拍手)

第1回目、これにて終わりますが、次回は少し趣が変わりますが、「儒教から読み解く韓流ドラマ」というようなテーマで、少し話がやわらかくなったとお感じになるかもしれませんが、根はきょうのお話と、僕はすごくつながっている部分があると思います。韓国の長い歴史の中に今の北朝鮮もあるし、韓流ドラマもあるという、そういう位置づけで、ぜひ次回も今回の延長上でお話を聞きくださいますようお願いいたします。

どうもきょうはありがとうございました。

牧野さん、ありがとうございました。(拍手)

本稿は2012年度帝塚山学院大学・(財)大阪狭山市文化振興事業団主催国際理解公開講座(前期)における講演をまとめたものである。